



2021年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年8月6日
上場取引所 東

上場会社名 大幸薬品株式会社
コード番号 4574 URL <http://www.seirogan.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柴田 高
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部門担当 (氏名) 本間 豪 TEL 06-4391-1123
四半期報告書提出予定日 2021年8月6日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2021年12月期第2四半期の連結業績（2021年1月1日～2021年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第2四半期	5,106	—	△2,280	—	△2,737	—	△2,372	—
2020年12月期第2四半期	10,967	—	4,238	—	4,114	—	2,858	—

(注) 包括利益 2021年12月期第2四半期 △2,288百万円 (—%) 2020年12月期第2四半期 2,850百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第2四半期	△54.62	—
2020年12月期第2四半期	66.29	65.95

(注) 1. 前連結会計年度は決算期変更の経過期間となり、前第2四半期連結累計期間については、当社並びに3月決算であった連結子会社は6ヵ月（2020年4月1日～2020年9月30日）、12月決算の連結子会社は9ヵ月（2020年1月1日～2020年9月30日）、当第2四半期連結累計期間については、海外子会社を含むグループ全体で2021年1月1日から2021年6月30日を連結対象期間としております。このため、対前年同四半期増減率については記載していません。

2. 2021年12月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年12月期第2四半期	27,209	19,986	73.5
2020年12月期	31,757	22,781	71.7

(参考) 自己資本 2021年12月期第2四半期 19,985百万円 2020年12月期 22,777百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	—	7.00	—	18.00	25.00
2021年12月期	—	0.00	—	—	—
2021年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

2. 配当予想の修正については、本日（2021年8月6日）公表致しました「通期連結業績予想の修正及び棚卸資産評価損の計上並びに剰余金の配当（中間配当無配）及び期末配当予想の修正、役員報酬の減額に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2021年12月期の連結業績予想（2021年1月1日～2021年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,500	—	△2,000	—	△3,400	—	△2,800	—	△64.24

- （注） 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有
2. 前連結会計年度は決算期変更の経過期間となり、通期については、当社並びに3月決算であった連結子会社は9ヵ月（2020年4月1日～2020年12月31日）、12月決算の連結子会社は12ヵ月（2020年1月1日～2020年12月31日）を連結対象期間とした変則決算となっております。このため、対前期増減率については記載しておりません。
3. 連結業績予想の修正については、本日（2021年8月6日）公表致しました「通期連結業績予想の修正及び棚卸資産評価損の計上並びに剰余金の配当（中間配当無配）及び期末配当予想の修正、役員報酬の減額に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年12月期 2 Q	44,136,900株	2020年12月期	44,001,900株
② 期末自己株式数	2021年12月期 2 Q	553,533株	2020年12月期	685,695株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年12月期 2 Q	43,437,286株	2020年12月期 2 Q	43,127,148株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料はT D n e t で開示するとともに、当社ホームページに掲載致します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、2020年6月26日開催の第74回定時株主総会で「定款一部変更の件」が承認されたことを受け、2020年度より決算日を3月31日から12月31日に変更致しました。このため、前連結会計年度は決算期変更の経過期間となり、前第2四半期連結累計期間については、当社並びに3月決算であった連結子会社は6ヵ月（2020年4月1日～2020年9月30日）、12月決算の連結子会社は9ヵ月（2020年1月1日～2020年9月30日）を連結対象期間とした変則決算となっております。このため、対前年同期比については記載しておりません。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、2021年に入り新型コロナウイルス感染症の流行が変異株の発生とともに再び拡大し、緊急事態宣言も度々発令されるなど、依然、収束までには至っておらず、引き続き厳しい状況にて推移しました。

足元においては、新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、経済活動の正常化が期待されますが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置は解消されておらず、先行きは不透明な状況が継続しております。

このような中、当社グループは衛生管理製品「クレベリン」の安定供給に努めるため、前期より生産能力向上やサプライチェーンの強化に注力し、また急激な需要増加の際に備え、手厚く商品の在庫を確保するとともに、人員体制や拠点の充実を図ってまいりました。

しかしながら、当第2四半期連結累計期間においては、冬季（第1四半期頃）における季節性インフルエンザの流行レベルが例年に比べて極端に低く、また新型コロナウイルス関連の需要においても、他社の商品を含め店頭等市場在庫の消化が鈍く、上半期の感染管理事業の販売状況は、昨年同時期の高い需要水準と比較し、一転して低調に推移しました。

医薬品事業につきましても、消費者の外出自粛やインバウンド需要消失の状況において、前期からの市場環境に大きな変化はなく、国内外ともに前期と同程度の水準で低調に推移しました。

このような足元の状況と今後の市場環境を踏まえ、当期の販売見通しについては、新型コロナウイルス感染症向けの需要予測が当初計画から大きく乖離するものと判断し、大幅に下方修正することと致しました。この結果、急激な需要増加に備え手厚く保有してきた感染管理事業の製品在庫は過剰状態と見做さざるを得ず、当第2四半期連結累計期間において、「クレベリン」及び「クレベアンド」等の棚卸資産のうち正常な営業循環を逸脱する部分に対し評価減を行い、1,721百万円の評価損を売上原価に計上致しました。販売費及び一般管理費につきましては、生産や販売が縮小する中、当初の需要予測を前提とした人員体制のほか在庫保管や販売促進策に係る費用等の増加傾向を抑制しきれず、3,763百万円となりました。また、前期に生産能力増強を目的に設立した茨木工場については、当第2四半期連結会計期間中より生産を停止しており、今後も一定の在庫量まで生産調整を行ってまいります。本生産停止中に発生した労務費や減価償却費等の製造費用については、操業停止関連費用として345百万円を営業外費用に計上しております。同様に、急激な需要増加に備えた感染管理製品の資材供給用の金型等についても、当面の販売計画及び生産計画を踏まえ、使用予定が見込まれない部分に対しては当第2四半期連結累計期間において減損処理し、225百万円を特別損失に計上致しました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,106百万円、営業損失は2,280百万円、経常損失は2,377百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失は2,372百万円となりました。

セグメント別の経営成績につきましては以下の通りであります。

(医薬品事業)

医薬品事業につきましては、消費者の外出自粛やインバウンド需要消失の状況において、前期から変化は乏しく、例年夏場に向けて需要が増加する主力の「正露丸」「セイロガン糖衣A」も低調な状態が続き、当第2四半期連結累計期間における国内向けの売上高は1,475百万円となりました。また海外向けの売上高につきましては、487百万円となり、中国・香港での需要は、やや回復傾向にありますが、依然として、新型コロナ流行前の水準までには至っておらず、総じて低水準で推移しております。

その結果、売上高は1,962百万円、セグメント利益は594百万円となりました。

・外部顧客への売上高の内訳 (医薬品事業)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (注) (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
国内	1,931	1,475
海外	406	487
合計	2,337	1,962

(注) 当社並びに3月決算であった連結子会社は6ヵ月(2020年4月1日～2020年9月30日)、12月決算の連結子会社は9ヵ月(2020年1月1日～2020年9月30日)を連結対象期間としております。

(感染管理事業)

感染管理事業につきましては、新型コロナウイルス感染症は未だ収束しない状況にありますものの、新型コロナウイルス流行の長期化による不安度の鈍化やワクチン接種による効果への期待等から、昨年同時期に突発的に発生したような需要は当期においては発生しておらず、当第2四半期連結累計期間においても、除菌関連製品の流通在庫は過剰な傾向にあり、調整段階のまま推移しました。このような中、当社グループの特許長期濃度保持型二酸化塩素ガス溶解液が、変異株を含む新型コロナウイルスを不活化することの有用性を実証する等の研究成果の発表や、当社の公式オンラインショップの立ち上げ、海外での新規チャネル開拓等にも注力してまいりましたが、国内外ともに新たな需要促進には至りませんでした。このような状況を鑑み、感染管理事業については今後の需要動向を見直し、売上高の見通しを大幅に下方修正するとともに、過剰状態となった棚卸資産の評価減を実施致しました。

その結果、売上高は3,140百万円、セグメント損失は2,139百万円となりました。

・外部顧客への売上高の内訳 (感染管理事業)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (注) 1 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (注) 2 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
国内：一般用	6,972	2,189
国内：業務用	1,288	746
海外	364	204
合計	8,625	3,140

(注) 1. 当社並びに3月決算であった連結子会社は6ヵ月(2020年4月1日～2020年9月30日)、12月決算の連結子会社は9ヵ月(2020年1月1日～2020年9月30日)を連結対象期間としております。

2. 当第1四半期連結累計期間より国内一般用と業務用の売上区分の一部を変更しております。当該影響によって当第2四半期連結累計期間の一般用の売上は205百万円増加し、業務用の売上は同額減少しております。

(その他事業)

その他事業につきましては、主に木酢液を配合した入浴液や園芸用木酢液等の製造販売を行い、売上高は3百万円、セグメント損失は12百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は27,209百万円(前連結会計年度末比4,548百万円減)となりました。また負債合計は7,223百万円(同1,753百万円減)、純資産合計は19,986百万円(同2,795百万円減)となりました。前連結会計年度末からの主な変動要因は、債権の回収に伴う受取手形及び売掛金の減少による流動資産5,196百万円の減少や支払手形及び買掛金の減少、未払法人税等の減少等による流動負債5,130百万円の減少、当面の運転資金を目的とした長期借入金の発生により固定負債3,377百万円の増加、また、配当金の支払いや親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による純資産2,795百万円の減少等であります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況につきましては、現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）が前連結会計年度末より954百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末残高は、5,652百万円となりました。なお、前第2四半期連結累計期間については、当社並びに3月決算であった連結子会社は6ヵ月（2020年4月1日～2020年9月30日）、12月決算の連結子会社は9ヵ月（2020年1月1日～2020年9月30日）を連結対象期間とした変則決算となっております。このため、対前年同期比については記載しておりません。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は1,259百万円となりました。主に売上債権の減少5,767百万円、棚卸資産の減少532百万円等の増加要因の一方で、税金等調整前四半期純損失2,901百万円、仕入債務の減少2,562百万円、未払金の減少900百万円、法人税等の支払額1,018百万円等の減少要因によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は1,149百万円となりました。主に有形固定資産の取得による支出1,132百万円等の減少要因によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は3,305百万円となりました。主に配当金の支払額780百万円等の減少要因に対し、長期借入れによる収入4,000百万円等の増加要因によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年12月期の通期連結業績予想につきましては、2021年2月12日公表の予想を修正致しました。詳細は、本日別途公表致しました「通期連結業績予想の修正及び棚卸資産評価損の計上並びに剰余金の配当（中間配当無配）及び期末配当予想の修正、役員報酬の減額に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,944	5,915
受取手形及び売掛金	7,918	2,170
商品及び製品	5,409	4,676
仕掛品	339	516
原材料及び貯蔵品	659	698
その他	549	647
流動資産合計	19,822	14,625
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,359	3,210
機械装置及び運搬具(純額)	1,676	1,543
土地	1,820	1,820
建設仮勘定	2,004	2,613
その他(純額)	586	380
有形固定資産合計	9,446	9,568
無形固定資産	319	351
投資その他の資産		
投資有価証券	1,231	1,215
その他	938	1,448
投資その他の資産合計	2,169	2,663
固定資産合計	11,935	12,583
資産合計	31,757	27,209
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,928	395
1年内返済予定の長期借入金	—	639
未払金	2,067	824
未払法人税等	1,113	13
返品調整引当金	120	88
賞与引当金	455	93
役員賞与引当金	57	—
その他	744	301
流動負債合計	7,487	2,357
固定負債		
長期借入金	—	3,360
長期末払金	549	549
退職給付に係る負債	742	774
その他	197	182
固定負債合計	1,488	4,866
負債合計	8,976	7,223
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,148	1,201
資本剰余金	1,516	1,648
利益剰余金	20,509	17,356
自己株式	△480	△388
株主資本合計	22,693	19,818
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	83	167
その他の包括利益累計額合計	83	167
新株予約権	4	0
純資産合計	22,781	19,986
負債純資産合計	31,757	27,209

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
売上高	10,967	5,106
売上原価	3,138	3,655
売上総利益	7,829	1,451
返品調整引当金戻入額	221	120
返品調整引当金繰入額	370	88
差引売上総利益	7,680	1,483
販売費及び一般管理費	3,441	3,763
営業利益又は営業損失(△)	4,238	△2,280
営業外収益		
受取利息	5	1
為替差益	—	27
受取賃貸料	2	1
その他	1	11
営業外収益合計	8	42
営業外費用		
支払利息	0	1
為替差損	16	—
賃貸費用	1	1
未稼働設備関連費用	113	150
操業停止関連費用	—	345
その他	0	0
営業外費用合計	132	499
経常利益又は経常損失(△)	4,114	△2,737
特別利益		
投資有価証券売却益	—	60
特別利益合計	—	60
特別損失		
固定資産除却損	2	—
減損損失	—	225
特別損失合計	2	225
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	4,112	△2,901
法人税、住民税及び事業税	1,215	14
法人税等調整額	37	△544
法人税等合計	1,253	△529
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,858	△2,372
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	2,858	△2,372

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,858	△2,372
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△8	83
その他の包括利益合計	△8	83
四半期包括利益	2,850	△2,288
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,850	△2,288

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	4,112	△2,901
減価償却費	268	454
減損損失	—	225
固定資産除却損	2	—
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△60
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	16	31
返品調整引当金の増減額(△は減少)	149	△32
賞与引当金の増減額(△は減少)	△366	△362
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△104	△57
貸倒引当金の増減額(△は減少)	12	—
受取利息及び受取配当金	△5	△1
支払利息	0	1
為替差損益(△は益)	0	△0
売上債権の増減額(△は増加)	△1,231	5,767
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,683	532
仕入債務の増減額(△は減少)	1,559	△2,562
未払金の増減額(△は減少)	△313	△900
未払又は未収消費税等の増減額	△188	△23
その他	△284	△352
小計	942	△243
利息及び配当金の受取額	5	4
利息の支払額	0	△2
法人税等の支払額	△847	△1,018
営業活動によるキャッシュ・フロー	100	△1,259
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△3	△7
定期預金の払戻による収入	9	10
有形固定資産の取得による支出	△1,060	△1,132
無形固定資産の取得による支出	△39	△94
投資有価証券の売却及び償還による収入	—	80
事業譲受による支出	△50	—
その他	—	△6
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,144	△1,149
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	4,000
リース債務の返済による支出	△18	△16
配当金の支払額	△571	△780
新株予約権の行使による株式の発行による収入	222	101
自己株式の取得による支出	0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△367	3,305
現金及び現金同等物に係る換算差額	△9	58
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,419	954
現金及び現金同等物の期首残高	9,645	4,698
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,226	5,652

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品事業	感染管理事業	その他事業			
売上高						
外部顧客への売上高	2,337	8,625	5	10,967	—	10,967
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,337	8,625	5	10,967	—	10,967
セグメント利益又はセグメント損失(△)	855	4,147	△8	4,995	△756	4,238

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2021年1月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品事業	感染管理事業	その他事業			
売上高						
外部顧客への売上高	1,962	3,140	3	5,106	—	5,106
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,962	3,140	3	5,106	—	5,106
セグメント利益又はセグメント損失(△)	594	△2,139	△12	△1,557	△723	△2,280

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「感染管理事業」セグメントにおいて、将来の使用が見込めなくなった遊休資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において225百万円であります。